

ぼくは、学校で絵本をえらぶときにこの「ありがとう」ということがすきだったのと、くまさんの絵がかわいかったので、読みたいと思いました。

くまさんがおとした手ぶくろをうさぎさんがひろってかれて、風にとばされないようにえだにしぼっておくためのひもをとりにかえろうとしたところが、やさしいなと思いました。

それだけではなく、さむかったうさぎさんは、その手ぶくろを耳にのせてかえたので、ありがとうの手がみと手ぶくろと、じぶんの耳かきしをつかってくれたいと木のえだにぶらさげていて、とてもこころがあったまりました。

うさぎさんがしてくれたことがいろいろな人をたすけて、どんどんありがとうがつづいてくまさんが見つけたときには、たくさんのものが木にふえてみんなの思いやりをつないでくれた木だと思いました。

おかあさんと読んでありがとうのたいせつさをもっとしれたのでこの絵本にありがとうと思いました。



【子】

ぼくは、この本を読んでみんなしんせつだとおもいました。なぜかと言うと、さいしょにくまさんがてぶくろをおとして、うさぎくんがひろっててぶくろをかりて、木にてぶくろとおれいの耳かくしとてがみをぶらさげて、ほかのみんなもかりておれいをつづけていったからです。さいごのくまさんも、雪でぬれないようににはこをつくって、みんなのおれいのものをはこに入れてはこにありがとうの木と書いて、みんなしんせつだと思いました。

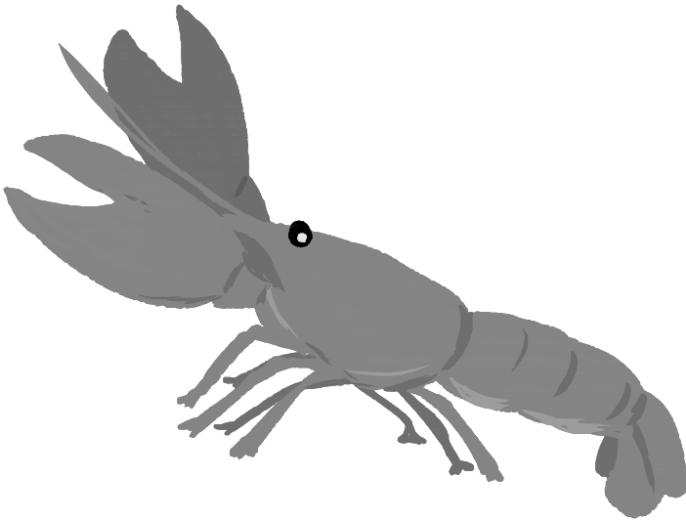
もしもぼくだったら、ありがとうの木にぼくがたいせつにしているやきゆうの本を三さつをぶらさげてかしてあげます。

なぜさいごにくまさんがはこにありがとうの木と書いたのかと言うとみんなてがみに「ありがとう」と書いてあつたからだとおもいます。ぼくも、人にしんせつにしたいとおもいます。

【親】

親切にしてもらった事に対して素直にありがとうと言い、親切でお返しするという良いお話でした。自分も常にそういう気持ちを持っていたいし、子供もそうあって欲しい、その様な気持ちを持った子に育ってほしいと思います。

この本を読んで、きよ年ぼくもザリガニをかっていて、しなせてしまったことを思い出しました。それでかなしくなりました。ぼくもだっぴしたところを見たことがあります。ぼくもまゆちゃんとかえちちゃんとおなじように、ザリガニがふえたと思ってたんですけどびっくりしました。ザリガニがだっぴすると体がやわらかくてかくなれないといけません。三びきのうち、一びきは大きくなってそのうち二ひきは、小さかったのてこわくてかくれていたのかなと思いました。かえちちゃんたちのように、大切にお世話したつもりだったのに三びきともしなせてしまったので、生きものをかうのは、むずかしいと思いました。



親 読んでどう思った？
子 私も何でザリガニが2匹にふえたのかなあと思った。
親 そうだね。急に増えているとびっくりするよね。
子 びっくりしたけど、増えたんじゃないかと、脱皮だったんだね。
親 脱皮見たことある？
子 ある。家でザリガニを飼っていた時に見たことあるよ。
親 そうだね。どんな感じだった覚えてる？
子 脱皮した後のザリガニはやわらかかったよ。
親 やわらかかったらどんなことに気をつけないといけないのかな？
子 おそわれてもにげられないから、かくれる場所を作ってあげないといけない。私もかくれたりできるようにトンネルみたいなのを置いてあげたよ。
親 脱皮をしながら大きくなっていくから、大切に育ててあげないといけないよね。
子 そうだね。命を大切にしないといけないと思った。
親 生き物や動物を飼う時には責任を持って育てていかないといけないことがわかったよね。
子 うん。そうだね。

【子】 わたしは、なかまはずれはいけないと思いました。なぜかというところ、じぶんたちをたべに、ちかくのほらあなに、すみついていると思ひこんでいるからです。

ねずみみんで、ほらあなに行つて、なんじゃもんじゃがなにか、たしかめにいけばよかつたと、思ひます。見に行つたら、なんじゃもんじゃがほんとうは、こうもりだと、わかるしこうもりは、ねずみを、たべないので、ともだちにもなれたと思ひます。わたしは、ちよくせつあつて、いろんはなしをしていきたいと思ひます。

【親】 素姓の知れない対象が、自分達のすぐ身近に現れた際に抱く一方的な思ひ込みや恐怖心が、ユーモアを交えて描かれてゐる話だと思ひました。「なんじゃもんじゃ」と名づけたわけのわからないものを何とかして追ひ出したいと、年よりの家で相談する場面は、姿や形が不明な物に對した時、感じてしまいがちな様々な思ひが描かれており、面白くもあり、また少し恐ろしくも感じます。

また、いちばんまずそうなねずみを食べさせれば、ねずみが嫌いになつてなんじゃもんじゃも逃げ出すだろうと考へる場面は、集團の爲に、弱者を犠牲とする事を描いており、年よりねずみを胸上げする光景と共に、集團の残酷さを感じ、暗い気持ちになりました。子どもの前向きな感想文に救われました。

親 なんじゃもんじゃは、ねずみ森のみんなにこわがられていたけど、なにものだったかな？

子 なんじゃもんじゃは、こうもりでお友だちがほしくて、ねずみ森にやつてきたんだよ。どこに行つてもお友だちがでなくてさみしかつたんだと思う。

親 ねずみ森のねずみたちが、なんじゃもんじゃをこわがっていたのはなぜかな？

子 ねずみたちは、食べられてしまふと思つたんだと思う。だつてかつてにねずみ森にやつてきたからね。「こわいものが来たよ」と思つたんだよ。

親 ねずみ森に来るのにかつてに来てはいけないの？

子 ほらあなに来るのもよやくとかひつようじやないかな？ちゃんとねずみたちにあいさつすればよかつたのにね。

親 そうだね。あいさつをしておけば、こわがられなかつたかもね。ちびでやせつぽちで、だんまりやでへんてこな色のよわ虫ねずみが、せかい一つよくて、ゆう気のあるねずみになつたのはどうしてだと思ふ？

子 よわ虫じやないよ。つよ虫だよ。ねずみたちが、こわがつているほらあなに、一人で行つたからね。ねずみたちが楽しくくらせるように、みんなのためにがんばつたし、ちびねずみは、みんなのおかげで人気者になれたよ。ぼくにはできないことをしたから、つよいねずみだと思ふ。

親 最終的に、なんじゃもんじゃとお友達になり、二人で幸せになれたお話です。自分より、優れていると思ふお友達をよくほめる子どもですが、この本でもいじわるなねずみ達に焦点を合わせるのではなく、がんばつたねずみに注目していることに、純粋な心を感じ、とてもうれしく思ひました。

親 読書を通じて色々な世界観や考へ方に触れ、心が成長していく事を願ひます。